

9 新てっぼうゆりの有望品種「銀河1号」

(園試 野菜、花き部)

実生1年目の開花率が高く、商品価値の高い2~3輪花が多い。

葉は広葉で立性で、市場性も高い。適応地域は県下全域。

(1) 背景とねらい

新てっぼうゆりは、てっぼうゆりの出荷の少ない7~10月に出荷されることや、種子から1年以内で開花するため、てっぼうゆりのように球根代がかからないこと等から本県でも生産が増加しつつある。最近の新てっぼうゆりは従来のものに比べると品質的にはかなり向上してきたが、市販されている品種のなかには実生1年目の開花率、茎葉のバランス等において問題のある品種が多く産地化をはかる上で品種選抜が急務である。このことから高品質で開花率の高い品種の選抜を行なった結果、単年度ではあるが銀河1号が有望と認められたので参考に供する。

(2) 技術内容

1) 銀河1号の品種特性について

(ア) 実生1年目の開花率が高く、商品価値の高い2~3輪花が多い。

(イ) 花は丸弁で厚く横から斜上向き、葉は広葉で短く立性で市場性が高い。

(ウ) 収穫最盛期は慣行の12月中旬まきでは9月中旬~下旬となる。

2) 育成元 タキイ種苗

3) 適応地域 県下全域

(3) 指導上の留意点

1) 実生2年目の特性は引きつづき検討するが、収穫期は7月中旬から8月上旬と思われる。

2) 56年は異常気象下での成績であるが、過去の成績から推定すると、各特性は平年でもあまりかわらないものと思われる。ただし、収穫期は若干早まることが予想される。

3) 栽培法は慣行栽培に準ずる。

(4) 試験成績の概要

1) 試験課題名 新てっぼうゆりの品種比較試験

2) 試験年次および場所 昭和54~56年岩手県園芸試験場

3) 試験方法

(ア) 供試条件

① 銀河1号 (タキイ種苗)

② 銀河2号 (")

- ③ 銀河 3 号 (タキイ種苗)
- ④ 花 園 (第 1 園芸)
- ⑤ 千曲の雪 (")
- ⑥ 北沢早生 (ヤマセ種苗)
- ⑦ 北沢中生 (")

(イ) 区制 1区 30株 2区制

(ウ) 耕種概要

は種期 昭和55年12月17日 定植期 昭和56年5月14日

栽植距離 床幅 120 cm 通路 60 cm 条間 20 cm 株間 10 cm

施肥量 (10a 当り Kg)

基肥 堆肥 3,000 N-10、 P_2O_5 -20、 K_2O -10

(CDU 磷加安 S 555-66.7 BM 熔磷-50)

追肥 N-5、 P_2O_5 -1.3、 K_2O -5 (磷硝安加里 S 646-31.3)

4) 試験結果

(ア) 開花状況

開花株率は、北沢系が30~40%と低い他は、各品種とも85%以上で特に銀河2号は、96%と高かった。開花本数のなかで草丈60cm以上の本数においても同じ傾向であった。

(イ) 切花品質および収穫本数

草丈は普通90cm以上あればよいが、銀河1号、北沢早生、中生が110cm以上と高く、銀河1号は比較的よく揃っていた。葉は広葉で短く、立性のものが好まれるが、この条件にあり品種は銀河1号、3号であった。

また、花梗は1個所から分岐しているものが良く、花梗からさらに花梗が分岐しているものは嫌われるが、この第2次花梗数の比較的少ない品種は銀河1号、3号、花園で、多い品種は北沢中生、千曲の雪であった。

a 当り収穫本数の最も多い品種は銀河2号であったが、商品価値の高い2~3輪花の多い品種は銀河1号、次いで千曲の雪、銀河2号であった。

(ウ) 時期別収穫本数

収穫最盛期は銀河3号、花園が早く8月中旬~9月上旬、銀河2号、千曲の雪がそれに続き銀河1号が9月中~下旬、北沢早生、中生は9月下旬~10月中旬であった。

以上の結果、有望と思われる品種は、銀河1号で、開花率が高いだけでなく商品価値の高い2~3輪花が多く、第2次花梗数は少ない。また、花は丸弁で厚く、横から斜上向き、葉は広葉で短く立性で市場性が高い。

(5) 主要成果の具体的データ

表1 特 性 表

項目 品種	草 丈		葉の大きさ				葉の 着生 状態	花の着 生状態	花弁 の 形状	第2次 花梗数		切花重		開花 株率	良品 本数	備 考
			長 さ	幅												
銀河1号	やや高	○	短	○	広	△	立性	横~斜 上向	丸弁	中	○	中	○	やや高	多	花弁は やや厚 い。
" 2 "	中	×	中	○	"	△	"	"	"	"	×	軽	△	高	やや多	
" 3 "	"	△	短	○	"	△	"	"	"	"	△	やや軽	△	やや高	中	
千曲の雪	"	△	やや長	△	中	△	中	"	"	多	×	"	○	"	やや多	
花 園	"	△	"	△	広	×	"	"	"	少	△	軽	×	"	中	
北沢早生	やや高	△	中	×	狭	△	下垂	下向	剣弁	中	○	中	×	低	少	花筒が 長い。
" 中生	"	△	長	×	"	○	"	"	"	多	△	重	×	"	少	

注) ○、△、×の記号は揃いの程度を示す。○:良好 △:普通 ×:悪い

表2 開 花 状 況

30株当り

項目 品種	育苗中 抽台率	定植時 葉 数	開 花 株		未開花 株 数	開 花 本 数			1株当り 収穫本数
			数	率		A	B	計	
銀 河 1 号	1.7	4.7	25.5	85	4.5	25.0	1.5	26.5	0.83
" 2 "	13.6	5.3	29.0	96	1.0	28.0	7.0	35.0	0.93
" 3 "	5.8	5.1	28.0	93	2.0	22.5	6.0	28.5	0.75
千 曲 の 雪	31.0	5.5	27.0	90	3.0	26.5	6.5	33.0	0.88
花 園	7.2	5.2	26.5	88	3.5	26.0	4.5	30.5	0.87
北 沢 早 生	0.8	4.5	11.5	38	18.5	11.0	0.5	11.5	0.37
" 中 生	0.3	4.3	9.0	30	21.0	8.5	0.5	9.0	0.28

注) 開花本数A:販売可能(止葉までの草丈60cm以上)

B: " 不可(" 60cm未満)

1株当り収穫本数:開花本数A / 供試株数

表3 切花品質および収穫本数

項目 品種	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)	葉 数 (枚)	葉の大きさ (cm)	
				長 さ	幅
銀河1号	112.7 ± 16.2	8.7 ± 1.4	51.3 ± 10.2	10.4 ± 1.0	2.4 ± 0.3
＃ 2 号	93.0 ± 23.9	7.7 ± 1.3	43.6 ± 11.5	12.1 ± 1.2	2.5 ± 0.3
＃ 3 号	93.0 ± 20.4	8.2 ± 1.3	47.7 ± 12.1	10.8 ± 1.4	2.5 ± 0.3
千曲の雪	97.9 ± 19.0	7.6 ± 1.4	44.8 ± 11.6	13.4 ± 2.0	2.1 ± 0.4
花 園	90.4 ± 19.9	7.7 ± 1.5	41.2 ± 11.0	13.0 ± 1.8	2.7 ± 0.5
北沢早生	114.9 ± 21.9	8.3 ± 1.3	55.3 ± 16.8	12.7 ± 3.0	1.8 ± 0.3
＃ 中生	120.5 ± 18.5	8.5 ± 1.2	55.3 ± 15.1	14.6 ± 2.4	1.8 ± 0.2

項目 品種	花 数 (輪)	第2次花梗数 (本)	切 花 重 (g)	a当り収穫本数(本)			
				1 輪	2~3輪	4輪以上	計
銀河1号	3.0 ± 0.8	0.32 ± 0.65	157.1 ± 45.1	50	1,900	550	2,500
＃ 2 号	2.2 ± 1.2	0.40 ± 0.86	121.0 ± 50.5	1,100	1,400	300	2,800
＃ 3 号	2.5 ± 1.2	0.37 ± 0.75	133.7 ± 53.9	600	1,250	400	2,250
千曲の雪	2.8 ± 1.4	0.51 ± 0.82	126.1 ± 46.3	550	1,500	600	2,650
花 園	2.0 ± 1.4	0.24 ± 0.74	121.8 ± 57.3	1,350	950	300	2,600
北沢早生	2.8 ± 1.1	0.42 ± 0.67	153.9 ± 58.9	100	650	350	1,100
＃ 中生	2.7 ± 1.1	0.65 ± 0.74	170.1 ± 56.3	50	550	250	850

注) 各項目とも第2表、開花本数Aの平均値
 草丈は止葉までの草丈
 茎径、葉の大きさは、草丈の中央部を測定

表4 時期別収穫割合

項目 品種	8月		9月			10月			11月 上	平均開花日
	中	下	上	中	下	上	中	下		
銀河1号		6	12	36	28	10	4	2	2	9月20日
＃ 2 号	14	26	9	13	21	13	4			9月10日
＃ 3 号	25	31	25	4	4	7	4			9月3日
千曲の雪	9	23	23	18	13	8	6			9月10日
花 園	21	34	21	4	4	12	2	2		9月4日
北沢早生			5	9		40	32	14		10月8日
＃ 中生					29	36	29		6	10月9日

(6) 残された問題点

- 1) 2年目以降の品質収量
- 2) は種期と収穫時期